

# 魚病診断結果について

湯浅 明彦・嶋村 一郎

平成12年4月から平成13年3月の期間に、水産試験場への持ち込みと養殖場の巡回調査時に採取した検体について魚病診断及び薬剤感受性試験を行った結果を取りまとめた。

## 魚病診断結果

月別の診断件数を表1に、魚種別の診断結果を表2、3に示した。

表1 平成12年度 魚種別の月別診断件数

魚種名	平成12年 月					平成13年 月					計		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
ブリ(0オ)	1			1	6		1		1				10
ブリ(1オ)			1	1	1						1		3
カンパチ		1											2
ヒラメ						1					1		1
トラフグ			3				1	1	1	1	2		8
イサキ	1												1
イシダイ									1				1
クロアワビ <sup>2)</sup>											1		1
小計	2	4	1	3	8	1	4	2	2	4	1	0	32
アコギ	34	8	15	3	0	2	0	1	13	7	20	15	118
アマギ	1	2	3							1	2	1	10
ウナギ	3		1				1				1	1	7
小計	38	10	19	3	0	2	1	1	13	8	23	17	135
総診断件数	40	14	20	6	8	3	5	3	15	12	24	17	167

表2 平成12年度 魚種別月別の診断結果(海面関係)

魚種名	病名	平成12年 月					平成13年 月					計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
ブリ(0オ)	連鎖球菌症					6								6
	ブリオ病	1												1
	ノカルジア症							1						1
	連鎖球菌症+ベネデニア症									1				1
	類結節症+連鎖球菌症				1									1
小計		1	0	0	1	6	0	1	0	1	0	0	10	
ブリ(1オ)	連鎖球菌症			1										1
	類結節症					1								1
	ミコバクテリア症										1			1
小計		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
カンパチ	類結節症				1									1
小計		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
ヒラメ	ブリオ病		1								1			2
	連鎖球菌症							1						1
	細菌感染症									1				1
	不明		2 <sup>1)</sup>						1	1	1			4
小計		0	3	0	0	0	0	1	1	1	2	0	8	
トラフグ	ヘテロボトリウム症										1			1
	ヘテロボトリウム症+白点病					1								1
	トリコジナ症+白点病							1						1
	小計		0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
ブリヒラ	ベネデニア症							1						1
	シュードモナス症										1			1
	マダイ				1									1
	イサキ	1												1
	イシダイ									1				1
小計		2	4	1	3	8	1	4	2	2	3	0	32	

1) 中間育成中の種苗の死亡、濾過性病原体による感染症の可能性がある。

2) 種苗生産中の稚貝

内水面関係の診断件数はアユ118件、ウナギ7件、アマゴ10件であり、総計は135件であった。海産魚における診断件数はブリ13件、ヒラメ8件、カンパチ2件、トラフグ2件、マダイ1件、その他魚類が6件であり、総計は32件であった。

アユでは冷水病およびシールドモナス病の診断件数が61%を占め、冷水病は4月に最も多く発生が見られた。ウナギでは鰓弁充血症が1件確認された。

海産魚では、ブリの連鎖球菌の診断件数が最も多かった。また、ブリでノカルジア症、ミコプラズマ症が各1件確認された。

### 薬剤感受性試験結果

アユの冷水病原菌 *Flavobacterium psychrophilum* は、前年度同様にスルフィソゾールおよびフロルフェニコールに対して全ての菌株で高い感受性を示した。しかし、この2剤以外ではオキシリニン酸、スルファモノメトキシンとオルメトプリムの合剤に対して低い感受性を示す菌株や感受性を示さない菌株が見られた。(表4)。また、シールドモナス病原菌 *Pseudomonas plecoglossicida* は全ての菌株で、検査した薬剤に対して感受性を示さなかった(表5)。

ブリの連鎖球菌症の薬剤感受性試験結果では、OTC、ABPCに高い感受性を示す菌株が見られた。また、OAはすべての菌株で感受性を示さなかった(表6)。

表3 平成12年度 魚種別月別の診断結果(内水面関係)

魚種名	病名	平成12年 月										平成13年 月			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
アユ	冷水病	20	4	7	2						5	2	4	2	46
	冷水病+シールドモナス病										3	2	5	1	11
	冷水病+キノケケル入症				2										2
	シールドモナス病				1	1					2	2	5	2	13
	エロモナス病										1				1
	エブリオ病												2	3	5
	ボケ病								1						1
	水カビ病									1			1	2	4
	胃真菌症				1									1	1
	不明										2			5	7
	小計	13	4	4				2		2	1	3	5	34	
	小計	33	8	15	3	0	2	1	1	13	7	20	15	118	
アマゴ	せつそ病	1		2										3	
	せつそ病+細菌性鰓病										1	1		2	
	細菌性鰓病												1	1	
	テトラオンクス症				1									1	
	水カビ病												1	1	
	不明		2											2	
	小計	1	2	3	0	0	0	0	0	0	1	2	1	10	
ウナギ	鰓弁充血症								1					1	
	バラコ口病	1		1										2	
	カラムナリス症	1												1	
	不明	1											1	1	
	小計	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	7	
	計	37	10	19	3	0	2	2	1	13	8	23	17	135	

表4 アユから分離した *Flavobacterium psychrophilum* の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	SMMX	SIZ	OA	FF	SO
-					13
+			7		2
++			8		
+++		15		15	

表6 ブリから分離した 溶血性連鎖球菌の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	OTC	EM	ABPC	FF	OA
-					6
+			1	1	
++	2	6	2	5	
+++	4		3		

表5 アユから分離した *Pseudomonas plecoglossicida* の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	SMMX	SIZ	OA	FF	SO
-	5	5	5	5	5
+					
++					
+++					

SMMX : スルファモノメトキシ(ダ'イメソ)  
 SIZ : イスタン(スルフィソゾール)  
 OA : オキシリニン酸(パ'ラザン)  
 FF : アクアフェン(フロルフェニコール)  
 SO : スルファモノメトキシ・オリメトプリム  
 OTC : オキシテトラサイクリン  
 EM : エリスロマイシン  
 ABPC : アンピ'シリン